

島根県・松江市における情報分野の産学官連携

○丹生 晃隆 (島根大学産学連携センター)

1. はじめに

島根県松江市には、オープンソースのプログラミング言語である Ruby の開発者まつもとゆきひろ氏が在住しており、この Ruby やオープンソースを軸とした情報産業振興に取り組んでいる。Ruby は、Web アプリケーションの開発に適していると言われ、素早く市場にサービス投入したい顧客のニーズに応える点で注目されている。松江市は、世界に通用するオンリーワンの素材として Ruby に着目し、2006 年度に市の施策として、「Ruby City MATSUE プロジェクト」をスタートさせた¹⁾。島根県やしまね産業振興財団においても、情報産業振興を重点施策に掲げ、県内 IT 産業の競争力アップを目指している。2012 年 4 月に、Ruby はその言語仕様が国際規格 ISO/IEC 30170 としても登録され、今後ビジネス分野でのさらなる活用も見込まれている。産学官連携の関わりでは、シーズ発表会等の取り組みによって、県内 IT 企業と研究者との共同研究という新しい形態での連携も生まれ始めた²⁾。本稿では、産学官連携に関わる、これらの最近の動きを紹介する。

2. 島根県の情報産業

島根県情報産業協会が実施した調査³⁾によると、2012 年度末の時点での県内ソフト系 IT 企業(計 59 社)の売上高は 178 億 4100 万円、従業員数は 1,127 人と報告されている。2008 年度と比べると、売上で 34.7%、従業員数は 10.0%の増加である。全国レベルでは、リーマンショックを挟んで乱高下しているのに対して、島根県の IT 産業は安定した増加傾向を示している。Ruby による開発案件についても、76 件(2008 年度)から 271 件(2012 年度)と増加、売上額も 3.6 億円(2008 年度)から 8.0 億円(2012 年度)と増加している。島根県やしまね産業振興財団では、Ruby を含め、エンジニアを対象とした IT 人材育成支援事業を実施しており、松江市でも、地元教育機関における Ruby 講義の設置等、積極的に人材育成を行ってきた。また、島根県、松江市ともに、企業誘致活動を精力的に行っており、県外 IT 企業が複数進出し、新たに開発拠点やデータセンターが開設されている。2006 年度から続いている情報産業振興施策も成果として数字に表れてきた⁴⁾。

3. 情報分野のシーズ発表会の開催

島根県・松江市の情報産業振興における大学の関わりとして、当初は、学生に対するプログラミング教育や、大学主導の研究プロジェクト等が中心であった。産学官連携という点で一つの転機となったのは、島根県、しまね産業振興財団、松江市等と連携して、2009 年度から 3 か年に渡って開催した「情報分野研究シーズ発表会」の開催である。Ruby やオープンソースに限らず、情報分野全般をテーマとし、島根大学及び松江高専による研究成果を発表した。情報分野の産学連携は、企業側が求める「ニーズ(現場での開発課題)」と、大学側が捉える「研究」の考え方に違いがあり、難しい部分がある。しかしながら、シーズ発表会の開催により、情報分野の研究者と地元 IT 産業界との接点を増やすことができた。これにより、まだ一部の研究者の動きではあるが、共同研究や委託研究の実施等、新たな連携も生まれた。

4. 最近の動き

島根大学の廣富研究室では、2013 年度から、松江市の補助事業として「実践的 Ruby プログラミング実習」を実施しており、今般、題材として用いられているソフトウェアが「福祉機器コンテスト 2013」の機器開発部門において最優秀賞を受賞した⁵⁾。同じく、島根大学の六井講師は、2009 年度に開催したシーズ発表会でマッチングした、株式会社テクノプロジェクト(松江市)と「三次元カラーバーコードシステム」に関わる共同研究を実施し、今般、医療分野等における情報共有システムとしての実用化に向けて実施許諾契約が締結された⁶⁾。本稿の発表時には、これらの連携事例について具体的な内容及び連携のプロセスを述べるとともに、研究者と担当コーディネータとの関わりについても論じたい。

【参考文献】

- 1) 登坂和洋(2009)「Ruby の松江を世界に 根付くか地方の IT 文化」、『産学官連携ジャーナル』、Vol.4、No.1、pp.24-27。
- 2) 丹生晃隆(2010)「島根県における情報分野の産学官連携活動—学部と連携したシーズ発表会開催の取り組み—」、『産学連携学会第8回大会講演予稿集』、pp.93-94。
- 3) 一般社団法人島根県情報産業協会(2013)「ソフト系 IT 業界の実態調査報告書(第 5 回)」
<http://www.shia.or.jp/cgi-bin/rus7/new/data/attach/att-00238-1.pdf>(アクセス日:2013 年 11 月 1 日)
- 4) 野田哲夫(2013)「オープンソースのプログラミング言語 Ruby による地域産業振興」、『情報管理』、vol.56、No.6、pp.355-362。
- 5) 島根大学 Web ページ:「総合理工学研究科 廣富研究室が開発した障がい者の会話理解を支援するモバイルアプリ『STalk2』が福祉機器コンテスト 2013 において最優秀賞を受賞しました」
<http://www.shimane-u.ac.jp/docs/2013100100011/>(アクセス日:2013 年 11 月 1 日)
- 6) 島根大学 Web ページ:「総合理工学研究科 六井 淳 講師による研究成果「三次元カラーバーコードシステム」の実用化に向けた実施許諾について」、<http://www.shimane-u.ac.jp/docs/2013101500018/>(アクセス日:2013 年 11 月 1 日)